

地域学校園保健だより

横川地域学校園 養護教諭分科会 2022.12

横川地域学校園では、3校で情報を共有し、9年間の児童生徒の成長を見通しながら、協力して学校保健活動を行っています。

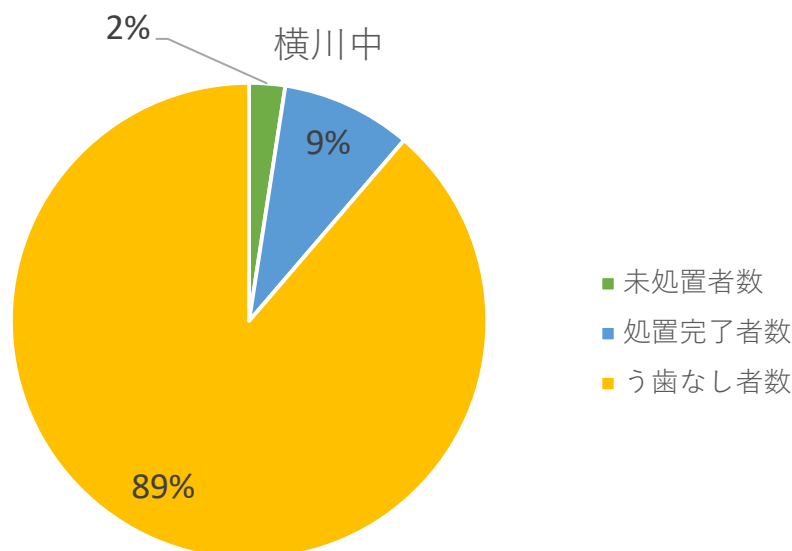
コロナ禍で、以前のような学校生活を送ることが難しい昨今ですが、学校園で協力してコロナ対策について情報交換などをしながら、各種行事などに取り組んでいます。

今回は、各校の歯の状態をお知らせします。



各校の歯の状態

(横川中)



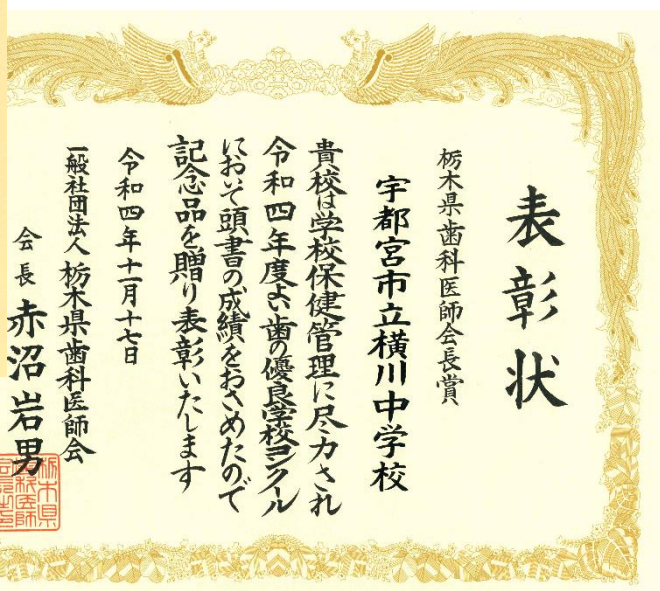
横川中

中学校は、未処置者は2%、う歯がない生徒が89%と、むしばが少ない傾向にあると言えます。

今年度はよい歯のコンクールで、「栃木県県議会議長賞」「歯科医師会長賞」をいただきました。これも、小学校から歯の指導を継続して行っているためと、感謝しています。

昼休みには、ハミガキを行っている生徒も多く、口腔衛生に関心が高い現状です。

(養護教諭 阿由葉)



小学校から指導を続けてきてくださったおかげで、素晴らしい賞をいただきました！

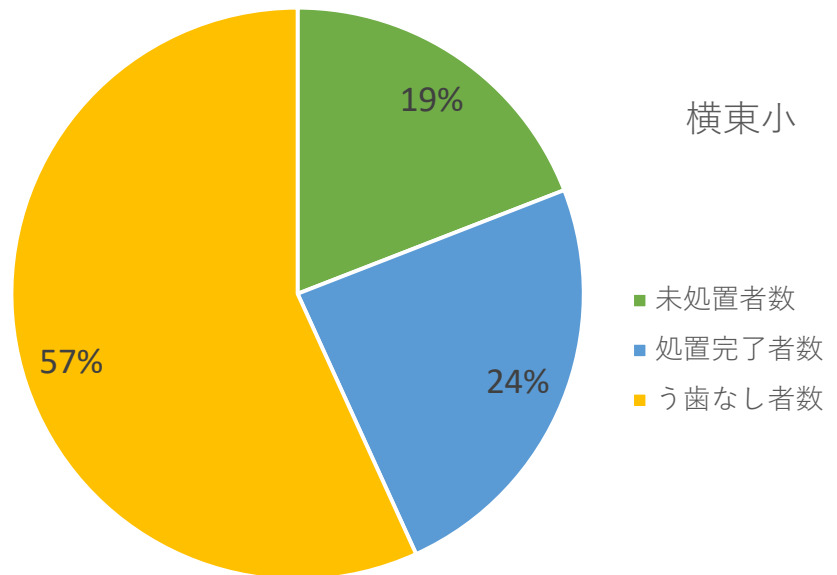
(横川東小学校)

横東小

横東小は、未処置者が19.1%、処置完了者が24%、う歯がない児童が56.9%でした。むし歯の治療に行く人がもう少し増えるとよい状態です。

むし歯がない児童が約6割もいるのは、家庭でも学校でも、しっかりと歯みがきをすることが定着しているからだと思います。この調子では歯みがきを続けていけるよう、歯科保健活動に取り組んでいきます。

(養護教諭 福田)



(横川中央小学校)

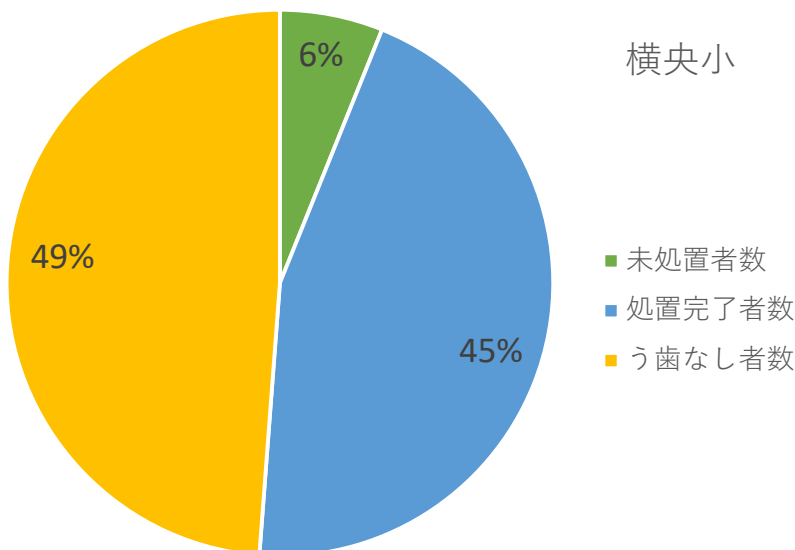
横央小

横央小

横央小は、未処置者が6%、処置完了者が45%、う歯がない児童が49%でした。う歯ができた際には、治療を受けることができています。

一時期、歯みがきを中止していましたが、歯みがきの大切さを改めて実感しました。健康な歯を保つためにも、引き続き歯みがき指導に取り組んでいきます。

(養護教諭 篠崎)



これから、感染症が流行してくる時期になります。今年はインフルエンザの流行も懸念されます。

朝・昼・夜きちんと歯をみがき、感染症を予防しましょう。

歯みがきって感染症予防になるの？



感染症の原因になるのは細菌やウイルスたち。口の中に入ったあとは細胞の中に潜り込む機会を狙っています。それを阻止するために日々戦っているのが、口の中の「IgA」という抗体です。

もともと口の中には良い細菌と悪い細菌がいます。このうち悪い細菌が増えると、これをやっつける抗体は大忙し。さらに外の細菌やウイルスまで入ってくると体を守りきれなくなります。また悪い細菌は、ウイルスが細胞の中に潜り込む手助けまでするのです！

悪い細菌を減らすのは歯みがき。口の中の清潔が感染症予防につながります。

そんな大切な歯みがきが、逆に人への感染のもとにならないように

◎ 歯みがき中はできるだけ口を閉じよう

◎ うがいの水を吐き出すときは低い位置からゆっくりと



これも感染予防の大切なマナーです